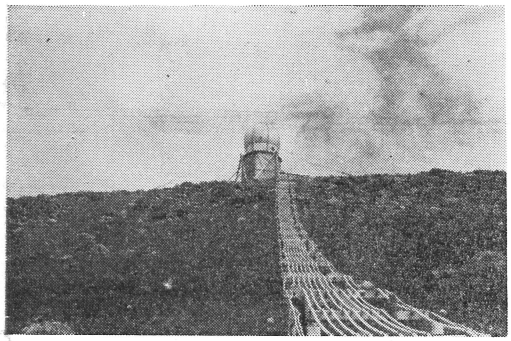
地方だより

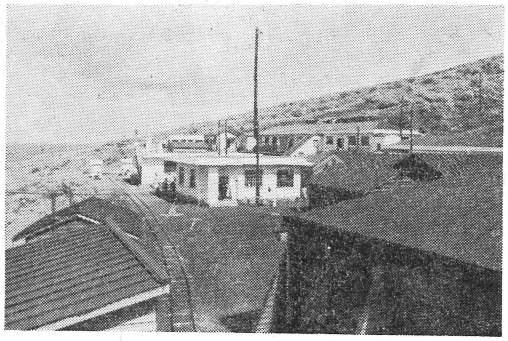
鳥島測候所

東京から320浬，船で約30時間，伊豆七島を飛び石沿いに更に南下すると，今なお火山活動期にある鳥島に達します．その昔，別名双子島（ふたごじま）と呼ばれた此の鳥島は，其の后の噴火で三つの主峰をもつに至り三子島（みつねじま）と俗称され，遠望は一見女性的ですが，近寄ると西側緩斜面に僅かボチボチと草が生えているにすぎない断涯せまる孤島で，〝鳥も通はぬ鬼ケ島〟これが始めての人が異口同者に発する言葉です。昭和22年に測候所が開設され，以来台風観測の前衛として，四国沖の南方定点と相まって活躍しております．東京を出る東海汽船の定期便も青ケ島が限度でこの島には三月毎の補給船凌風丸しか通いません．

地球観測年の一環として高戸気象観測がルーチンで実施され，この為自動追跡記録型方向探知機が370mの月夜山頂に設置され，日本最初の試みとして遠隔製作で海抜80米の観測所までケーブルで接続されてます．その他火山，地震，海洋，オゾン，放射，放射能観測が実施され，無線連絡を唯一の機関として，所員40名で観測所の機能が運営されて居ります．天水に頼る孤島の生活に渇水は極度の苦痛をもたらします．今年は十年来の渇水に



月夜山山頂に自動追跡記録型方向探知機（D55A）を収納したドームと観測所までのケーブル



鳥島測候所の全景

見舞われ三ケ月間に2度の入浴という悲劇さへ生じ，他はおして知るべき惨たる状態でした．この渇水は島の恵雨季の9月～10月の台風季にも及び，21，22号の相続く台風にも見放され，遂に当所開設以来始めての水補給の止むなきに至り，10月補給船で東京よりドラム罐で250石の水を送附され漸く危機を脱しました．

2年前天然記念物に指定され斯界を賑わし一躍此の島を有名にした白信天翁（しろあほうどり）鳥も，其の后順調に増えて30羽を数えるに至り，今年も又順次来島して，産卵を始めました．孤島と病気，これは吾々が一番心にかゝる事です．保安庁の巡視船が内地から急行しても往復60時間，一旦時化でもしたら船への収容は何時になるか判らず，島で呻吟しなければならない事を思えば，仇にも病気にはなれません．余暇を利用しての磯釣り，これは島暮しの最大娯楽の一つです．物おじしない通称ガンモ，アカバ，カッポレ，アブラダイ，ベタ，などの魚が面白い程釣れ，乏しい島の新鮮食料の足しとなります．傾斜面に庁舎があるので，運動場はなく，時折庁舎より40分もかゝる旭山の砂場まで繰出して，ソフトボールに興じる事もあります．他はピンポン，麻雀，碁，将棋等の室内娯楽が盛んです．最近の明るいニュースは長官と海洋気象部長の御尽力により朝日新聞社が東京～鳥島間を波浪観測のため飛行機を飛ばす事になり，其の折落下傘で内地からの便りがもたらせられる事になり，当所開設以来の画期的な出来事で所員一同大いに期待して居ります．

（気象庁海洋気象部離島課，藤野六雄）